



議員報酬削減に向けた県議団の取組み

昨年7月に、みんなの党神奈川県議団は「県議会における議員報酬に向けた協議の場設置の提案」を竹内議長に提出しました。

私も政調会のメンバーとして何度も話し合い、団会議でみんなの意見を集約し、提出に至りました。その後も議会では、報酬削減を含む様々な課題について「議会改革検討会議」で議論をしているとの報告がされていました。

そこで、11月19日に、改めて、議長宛に「報酬削減についての開かれた場での協議申し入れ書」を提出しました。議長のリーダーシップのもとで「議会改革検討会議」での議論を早め、スピード感のある決定をお願いしました。

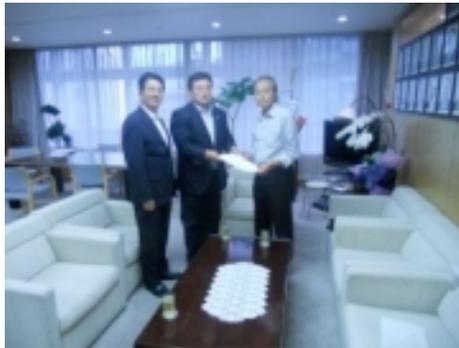
議長は、その翌日11月20日に「議員報酬の削減に関する議長コメント」を出されました。その内容は以下のようなものです。

『県議会としても、県民の皆様や職員と力を合わせ、この危機的な財政状況を乗り切るため、議員全員が危機意識を共有し、一丸となって取り組みを進めていく必要

があると強く認識している。については、当分の間、議員報酬を削減する方向で、真摯に検討していくこととする。具体的な削減率等については、今後「議会改革検討会議」で検討を行っていく。』

現在、議会改革検討委員会で、この件について話し合われています。

近いうちに、皆さんに結果をご報告できると思います。



----- コラム -----

昨年12月愛媛県で出された「新しい行政改革大綱」の中の5つの意識改革の徹底がとても参考になり、行政の意識の中に取り入れていくべき内容だと思います。

☆「5つの意識改革」☆

- 1、「なぜできないか」 ⇒「どうすればできるか」
- 2、「自治体に倒産はない」⇒「自治体に倒産はありえる」
- 3、「やってあげる」 ⇒「一緒にやる」
- 4、「失敗を隠す」 ⇒「失敗を積極的に明らかにする」
- 5、「情報に振り回される」 ⇒「情報を活用する」



子育て中のママとシニア世代の交換塾

11月17日に参加した「子育て中のママとシニア世代の交換塾」の報告です。横須賀市母親クラブ連絡会の会長さんのお誘いで、シニアとして姉と参加し、充実したお話を伺うことができました。

参加者は子育てママから84歳の方まで、60数名。

前半の講師は、『お母さん大学』学長代理で『お母さん業界新聞』の創刊者・藤本裕子さん。

☆お母さんになったら、夢を描けない・好きなことが出来ない…そう思って子育てすると、子どもも同じ子育てをする

☆お母さんはこうあるべき、という縄をつけている。はずしてみませんか？

☆子どもはまっすぐ育つ。だから、余計なことをしてはいけない

☆おばあさんにはやるべきことがある。子育てのノウハウを持っている

☆お母さん大学のキャンパスは家庭の中。子どもが先生

☆どんな環境でも子どもを守るのが母親etc. 笑いあり涙ありで、心にしみるお話でした。

藤本さんの講演のあとは、横須賀市で子育てに関わっている各世代の方達のトークセッション。それぞれの立場から、貴重な意見が飛び交いました。



少子高齢化の中で、子供達とシニア世代がお互いに交流しあえたら…。

私の大好きな教育論の一つに『複眼教育』があります。

「子育ては、親の単眼でやると危うい。親以外の様々な人たちの『目』が必要で、日本はずっとそうやってきた。」これは、民俗学の大家・大藤ゆきさんの言葉です。

今、必要なのは、この「複眼教育」です。地域ぐるみの子育てです。子供達、近所のお兄さんお姉さん、ミドル世代、そして「経験・知識豊富なシニア世代」が、ともに学び、育てる場が教育の場として相応しいと思います。

子育ての基本の一つは、様々な年代の『眼』で、子どもを育てていくこと。

今回の交換塾は、そんな私の考えと、ピタッと合致したコンセプトの講座でした。

こうした運動が広がる事を期待しています。